費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	2,762,643,720	①費用進行基準を採用した業務：全ての業務 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：4,252,656,664―（財務費用は除く）（業務経費：3,656,839,320―、一般管理費595,817,344―） イ）自己収入に係る収益計上額：1,396,639,250―（知的所有権収入：16,357,180―、受託収入1,344,816,760―、その他雑益35,465,310―） ウ）固定資産の取得額：建物20,962,579―、構築物19,286,480―、機械装置63,388,000―、工具器具備品16,236,440―、その他146,674― ③運営費交付金の振替額の根拠 総費用(A)に対し、財源を特定できる(B)、減価償却費等(C)を減じた額を全額収益化。 （総費用(A)4,252,656,664－自己収入に係る費用(B)1,229,416,342－減価償却費等(C)260,596,602＝2,762,643,720） なお、自己収入に係る費用につきましては、直接経費と収支予算割合等に応じた間接費を配賦しております。
	資産見返運営費交付金	120,020,173	
	資本剰余金	0	
	計	2,882,663,893	
会計基準第80第3項による振替額		0	
合計		2,882,663,893	

③運営費交付金債務残高の明細

（単位：円）

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
平成18年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	債務残高のうち、31,421,334―は人件費の残額であり、想定できない人件費支出（退職金等）が発生しない限り、使用予定はありません。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	費用進行基準を採用した業務に係る分	31,421,334	
	計	31,421,334	
平成19年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	
	計	0	
平成20年度	業務達成基準を採用した業務に係る分	0	①債務残高のうち、27,175,467―は人件費の残額であり、想定できない人件費支出（退職金等）が発生しない限り、使用予定はありません。 ②債務残高のうち、51,347,640―は以下の緊急修繕により20年度中に執行を予定していた経費であるが、政府調達手続きにより21年度中の契約となり、21年度内に全額収益化する予定です。 ・400M水槽曳引車駆動車輪製作及びボギーオーバーホール 27,090,000― ・400M水槽曳引車強制制動装置整備 24,257,640―
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	
	費用進行基準を採用した業務に係る分	78,523,107	
	計	78,523,107	